

せつ か ず せつ
雪華図説・続雪華図説

天保3年・同11年

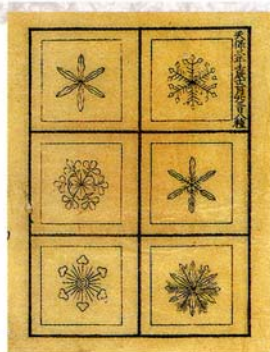
縦17.5cm 横12.1cm

下総国古河藩第四代藩主土井大炊頭利位が、二十年にわたり西洋製の顕微鏡を用いて雪の結晶を観察し書き留めた書。正・続二篇からなる日本初の雪に関する自然科学書である。

本篇では、雪の結晶は、寒さに応じてでき方は異なるが、結晶の六角形は、六を以て一円を囲むことが定理中の定理であると述べた。西洋での雪の観察方法については、雪が降りそうな夜に予め掛けて冷やしておいた黒布で降る雪を受け止める。肉眼で観察し、鏡で照らせばもつとはつきりする。息をこらえ、手のぬく

もりが伝わらないように細い毛抜きでつまみあげる、と解説した。観察して描いた結晶は、九十八種に及んだ。このうちの十二種は、マルチネツト著『格致問答』に載る図と同じであった、と同藩家老の鷹見泉石が寄せた識語に記されている。この外に、雪の効用も十四点述べている。

続篇は、天保三年十二月から同十一年二月の間に観察した図をおさめたもの。利位はこの間、大坂城代となり大塩平八郎の乱を鎮定し、その功績もあり京都所司代などを歴任後、老中となった。大坂や京で新たに観察した雪の結晶



丁寧に描かれた雪の結晶

は、五十八図。雪の結晶は、六つ出て千変万化であるが、江戸と異なり雪の大きさは巨細混じり至ると述べている。『雪華図説』『続雪華図説』ともに一大名の趣味として関係の近い大名筋に配られたものといわれ、今に伝わるものが少ない。二篇揃って所蔵する公的施設は天理図書館を含めて数カ所である。

(天理図書館 神崎順一)

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆天理ギャラリー第143回展「天理図書館開館80周年記念特別展-新収稀観本を中心に-」

日時: 5月15日(日)~6月12日(日)

◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

5月3日~5日、31日は閉館。

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)